法学部

やる気応援奨学金 vol.124 Report

ウェストミンスター寺院で

“多文化”ロンドンで大使館・EU訪問 欧州から日中関係を考える

法学部政治学科2年 田中（たなか） 僚（りょう）
（国立東京学芸大学附属高校）

ロンドンでの活動

２０１６年の春、私は「やる気応援奨学金」を利用し、英国・ロンドンで３週間、短期留学をしました。ロンドンでは、平日は語学学校に通い、放課後や週末を利用して様々な場所への訪問やインタビューなどを行うことができました。

本奨学金は、留学中のスケジュールや様々な手続きなど、すべて自ら行うのが決まりです。本稿では、このような奨学金を利用したからこそ得られた様々な経験について報告したいと思います。

今回の活動は、在英国日本国大使館とEU英国代表の訪問、インタビューがメインでした。その背景には、高校1年の時から外交官として日中関係の発展に携わりたいという思いがありました。

私は、尖閣諸島国有化後で日中関係が極めて悪化していた２０１２年、北京で日中（小）大使としての活動やホームステイをしました。その経験以来、実際に外交官が海外で働く姿を見てみたいと感じていて、今回大使館訪問をさせていただこうと考えたのです。

欧州と中国の関係

また、私がロンドンに行く前、欧州諸国のＡＩＩＢ加盟や英中接近などが報道されていました。以前から中国の対外関係に興味を持っていた私は、ヨーロッパが中国をどのように捉えているのか知りたいと感じたのです。当時はまだ英国のＥＵ離脱が決まっていなかったため、ＥＵ英国代表で対中国政策を担当されている方からお話を伺うことにしました。

前述の通り、これらの活動はすべて自ら決定し、アポイントまで取らなくてはなりません。最初は一学生にインタビューなどさせてもらえるのか、と心配でしたが、大使館・ＥＵともメールを送ると親切に応じてくださったため、心から感謝しています。また、これは語学学校についても同様です。ロンドン市内にあまたある語学学校の中から、１クラスあたりの人数、レベル数、学生の出身国割合、立地など様々な条件を比較し、入学手続きまでを行うのです。当然初めての経験で、英語力を始め非常に鍛えられたと感じています。

ロンドンでの生活で最も印象に残っ

語学学校のクラスメイトと共に

学んだ語学学校

EU 英国代表でインタビュー

たのは、「多文化」がどのようなものか、目の当たりにしたことです。実際私がホームステイをした家族は、スリランカからの移民でした。家で食べる料理はほぼすべてがカレー風味で英国に来た感じがしませんでしたが、日本人の舌には落ち着く味でした。また、街には様々な地域から来た人々が生活し、インド、中国、トルコ、など世界中の料理店があるのも印象的でした。

私が通っていた語学学校も「多文化」の例外ではなかったです。私がいた10名ほどのクラスには、イタリア・スイス・スペイン・台湾・ニジェール・フランス・モロッコ・ロシアから学生が集まり、とても刺激的でした。そして、授業時間の大半がペアになって会話する時間で、英語で様々なことについて意見を述べる経験は、これまでの英語学習であまりできていなかったため、貴重でした。様々な地域の文化についても知ることができ、とても楽しくやりがいのある学習でした。

大使館で学ぶ

英語学習以外で最も印象に残ったのは、大使館でたくさんのお話を伺えたことです。法学部の目賀田周一郎教授から中央大学出身の在英国特命全権公使を紹介していただき、大使館を訪問することができました。公使からは大学時代の語学学習や公務員試験対策などについてたくさんのアドバイスをいただきました。その後、同じく中央大学出身の書記官の方による案内で大使館を回りました。そこでは、外務省だけではなく様々な省庁の方々が一緒に仕事をしている様子がとても印象に残りました。その後、外務省の仕事、入省までの経緯、国際情勢など、様々なことを聞くことができ、本当に有意義な時間でした。

外交官を目指して

今回の留学中、大使館・EU双方のお話や現地メディアの報道などを通じ、欧州は中国をどのように捉えているのか十分とはいえないものの考えることができました。日本にとっての欧州と同様でしょうが、欧州にとって東アジアの安全保障は戦略的な利益にはなりません。この現実を突きつけられたような気がしました。すなわち、中国はあくまで重要な「経済パートナー」なのです。

この立場はアジアや太平洋沿岸の国々とは多少異なるもので、これを踏まえたうえで日本は中国やその他の国々とどのようにつき合うべきか考えなくてはならないと実感しました。

今後は、今回の留学の経験を活かし、将来についてより深く考えていきたいです。国際関係の学習については、英国で考えたことをさらに発展させられるよう、幅広い分野にわたって学んでいく。そして、外交官という職業についてもより具体化することができたため、引き続き多くの方からのお話を伺いつつ、その先の段階へ進んでいこうと思います。

今回の留学で得られた経験は、確実に本奨学金がなければできなかったものばかりです。すべて自らやる、というルールだったからこそ、自主的にたくさんのことに挑戦できました。また、何もかも日本より高いロンドンでの生活は、金銭的なサポートがなければ成立しませんでした。

この場をお借りし、本奨学金制度の運営にかかわるすべての方にお礼を申し上げたいです。そして、「やる気」での留学を面倒がらず、なるべく多くの皆さんに経験していただきたいという気持ちでいっぱいです。